

とうきょうすくわくプログラム実践報告書

所在	大田区東矢口 3-27-5 ハイム KOYOSHI102
園名	東矢口さぼうのいずみ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「スプリング」五感で春を感じる

<テーマの設定理由>

少しずつ温かくなり春の訪れを感じられるようになってきました。日本には「四季」があり、その季節にしか見られない風景や子ども達に知ってもらいたい文化があります。「センサリプレイ」にも桜のピンクや蜂蜜の黄色など、春を感じられる色を多く取り入れ「イースターエッグ」や「花見団子」など、春ならではの魅力的な遊びを企画しました。色彩感覚を養う視覚的な刺激だけでなく、様々な素材を用いて触覚並びに五感を刺激することも目的としています。

2. 活動スケジュール

次回活動日 5月22日

「カラフルフルーツ」をテーマにしたセンサリプレイ

3. 探究活動の実践

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

- ・タフトレイ ・着色した片栗粉 ・水 ・ダイヤカットの亚克力パーツ ・スプーン
- ・卵型カプセル（中にお米、豆、塩、鈴、木製ビーズ） ・卵型 LED ライト
- ・透明ボトル（カプセルに入れたものを可視化するため） ・リトミックスカーフ
- ・ピンクに着色したお米、パスタ ・透明トレイ ・ライトテーブル ・木皿
- ・豆腐粘土（3色） ・フェイクグリーンの葉っぱ ・カラー窓積み木 ・虫フィギュア
- ・成長サイクルボード

片栗粉は水に溶くことで「ダイラタンシー現象」を発生させ、そのとろみを蜂蜜に見立てて遊ぼうと考えました。

卵型のカプセルは中に入っているものと同じものを透明なボトルにも入れることで可視化させ、聞こえた音を頼りに中身が見えなくても同じ音から推測出来るようにしました。

お米とパスタは下から光を当てて夜桜を表現し、お米は光を通すがパスタは通さないという気付きにも繋がると思いました。

<活動の内容>

水に溶いた片栗粉は力を加えると固くなるのに、握っていた手を広げ力を緩めると溶け出します。この不思議な現象「ダイラタンシー現象」を蜂蜜に見立てて遊びました。また片栗粉が固まり埋まってしまったダイヤを指でほじくり出す遊びもしました。

イースターエッグをイメージしたカラフルな卵は振ると音が鳴るので、中に入っているものを想像したり、同じ音の卵を探したりして遊びました。また同じ色のリトミックスカーフを近くに置くことで色分け遊びも楽しみました。

夜桜をイメージしたお米遊びでは、お米のぱらぱらとした感触の他に木皿の上で弾ける音も楽しみました。お米の中から小さなお花パスタを探す提案もすることで指先もしっかり使って遊びました。

粘土遊びでは丸めた3色の粘土で3食団子を作ったり、黒豆を混ぜて豆大福を作ったりしました。

<活動中の子どもの姿・声、子供同士や保育士との関わり>

前回のセンサリープレイを体験したこともあり、今回は自分から触れようとする姿が沢山見受けられました。片栗粉にも「なんだろう」と興味を示して指でつつく様子が見られたので、目の前でダイラタンシー現象を見せると驚いた表情をしつつも、目を輝かせて自分でも確かめたいと、掌が黄色に染まるまで感触遊びを楽しんでくれました。また片栗粉に埋まったダイヤを指でほじくり出し、ポットに入れて集めるお子さんも居ました。

イースターエッグの音遊びでは、音の鳴る卵を耳元で振って、同じ音の卵があると「いっしょ」と教えてくれました。「このボトルの中身はお米だよ」と透明のボトルを見せると、交互に振りながら「ほんとうだ!」と音が同じことに気づき、卵の中身を知ることが出来て嬉しそうでした。

夜桜のように美しく輝くピンク色のお米にも子ども達は興味津々で、ぱらぱらとしたお米の感触を手で触れて楽しんだり、スプーンですくってあげ移し遊びを楽しむ姿がありました。木皿の上で弾ける音が心地よく、繰り返し楽しむ様子は保育者も驚くほどの集中力を見せてくれました。またお米の中に隠された小さな花のパスタにも気づき、指先で上手に摘んで掌にのせると、嬉しそうに「みてー」と報告してくれるお子さんも居ました。

粘土を使ったお団子遊びでも子ども達の素敵な閃きが沢山見受けられました。ピンク色のお米やパスタが丸められた粘土の上にトッピングとして利用されており驚きました。また埋め込まれた黒豆の位置も何となく顔に見えなくもない配置だったり、子ども達が考えながら遊んでいる様子が伺えました。

成長過程を学べる虫のフィギュアもじっくりと観察するお子さんが多く、「これがこれになるの?」と驚きを隠せない様子でした。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

前回にも増して子ども達が積極的に探求を楽しんでいるように感じました。「もっと触りたい」、「もっとやりたい」という意思が見受けられ、その中で私達がどのように声掛けをしサポートするかが大事だと考えます。

集中しているお子さんにはそっと見守り、繰り返し楽しんでもらえるような環境づくりを。発見したことを見せたい、伝えたいお子さんにはその喜びの共有を。関わり方次第で子ども達の探求心をより一層高められると思います。

ひとりひとりが自由な発想で遊ぶからこそ新たな発見があり、私自身も想定していなかった遊びが生まれます。それもまた”センサリープレイ”の魅力の一つだと思っています。子ども達の柔軟な発想力から得たヒントを今後のセンサリーに活かして参ります。